

サステナビリティ経営におけるリスクと機会の認識とマテリアリティ

Daigasグループは、「中期経営計画2026」策定時に、事業環境の変化と新たな課題を認識し、マテリアリティの見直しを行いました。

■ リスクと機会の認識

事業環境の変化と課題認識	リスク	機会	マテリアリティ
<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 脱炭素潮流の加速 ▶ トランジションエネルギーとして天然ガスの位置づけの高まり ▶ CO₂削減 ▶ エネルギーシステムの転換 ▶ 技術革新 ▶ TNFDへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> • カーボンニュートラルにかかわる国際的なルールや規制による事業計画への影響 • 事業適地確保・競争の激化 	<ul style="list-style-type: none"> • 天然ガスのグローバルでの普及拡大・高度利用の推進 • e-メタン・水素など新エネルギー開発 • 既存機器・インフラを活用したシームレスなエネルギーのカーボンニュートラル化事業の推進 • カーボンニュートラル関連技術・サービスの開発 	エネルギーのカーボンニュートラル化
<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギーセキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地政学的なリスクの高まりへの備え ▶ エネルギー製造・供給設備の安全・安心な管理・運用 	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料・資材等の調達困難化 • 自然災害に伴う設備修繕や対策費の増加 • 災害・事故による供給支障 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害に強いインフラ形成・商品開発による需要の拡大 • 地域との災害対策ノウハウの共有と連携による持続可能な事業基盤を継続 	お客さまと社会のレジリエンス向上
<ul style="list-style-type: none"> ● 価値観の多様化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ デジタル社会への移行 ▶ 多様な手法によるお客さまとの接点創出 	<ul style="list-style-type: none"> • お客さまの意識の変化 • DX推進の遅延 • 既存ビジネスモデルの陳腐化 • 生産性向上・新規参入等による競争の激化 	<ul style="list-style-type: none"> • DX推進による業務効率化と生産性向上 • 業務改革・行動変容による新規ビジネス創出力の強化 • 新規事業、新サービス創出への組織風土・体制の強化 	お客さまの価値観に寄り添う先進的で多様なソリューションの共創
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口構造の変化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業の多軸・多様化 ▶ 人材不足、労働観の多様化 ▶ 人材育成 ▶ 従業員のやりがい・やる気向上 	<ul style="list-style-type: none"> • 業務の担い手不足 • 次世代の確保・育成への対策増加 	<ul style="list-style-type: none"> • 多様な人材活用によるイノベーション推進 • アウトプットの最大化 	従業員と企業が共鳴し高め合う環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ● ESG経営への関心・要請の高まり <ul style="list-style-type: none"> ▶ コーポレート・ガバナンス ▶ コンプライアンスの徹底 ▶ 人権デュー・ディリジェンス ▶ 循環型社会の形成 ▶ 地域社会への貢献 ▶ サプライチェーン・マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> • 法令・規制の強化・改廃 • ステークホルダーからの信頼失墜 • 訴訟や取引停止等による事業継続への支障 • 資金調達の難化 	<ul style="list-style-type: none"> • コーポレート・ガバナンスの強化 • コンプライアンスの強化 • 地域社会の発展によるグループ事業収益の安定化 	健全でしなやかな経営基盤の維持・向上

■ 重要と考える理由

マテリアリティ	重要と考える理由
エネルギーの カーボンニュートラル化	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループは、天然ガスを主要な原料・燃料としてエネルギー事業を営んでおり、気候変動に関するリスクと機会を認識しています。 大きなリスクとして、海面上昇や局地的な異常気象の発生等による台風や大雨などの自然災害は、製造・供給設備などに損害をもたらす可能性があります。また今後、国内での炭素税導入や税率の大幅な引き上げが行われた場合や、顧客の非化石燃料への転向意向が高まれば、事業へ影響を与える可能性があります。 一方で、エネルギーのカーボンニュートラル化を目指し、再生可能エネルギーやカーボンニュートラル化技術の開発・普及を促進すれば、当社グループにとって大きな機会になる可能性があります。 また、当社グループのエネルギー事業は地域の雇用創出や投資、技能開発とともに経済発展に貢献している一方で、生物多様性の損失、土壌・水・大気汚染への対策、人権の尊重、労働安全の確保など、社会・環境面での対応が不可欠と考え、対応を進めています。
お客さまと社会の レジリエンス向上	<ul style="list-style-type: none"> お客さまの生活や様々な事業の維持・継続につながるエネルギーの安定供給は、当社グループ事業の最優先の責務であり、事業の根幹と認識しています。 地政学的なリスクの高まりや自然災害によるオペレーションの不備や設備トラブルが起きると、当社グループ事業以外の市場や暮らしに大きな影響を与える可能性があります。 計画的な設備更新や導管網整備の継続による災害に強いインフラ形成や技術開発の促進は地域社会の持続可能性を高めると考えます。
お客さまの価値観に寄り添う 先進的で多様な ソリューションの共創	<ul style="list-style-type: none"> グループ事業の持続的な成長には、多様化するお客さまの価値観に寄り添い、グローバルな社会課題を解決できる先進的で多様なソリューションの共創が不可欠と考えています。 市場競争力を高めるため、DXによる付加価値の追求や新領域でのビジネス創出への投資が必要と考えています。 また、従業員の業務改革や行動変容を促す組織風土・体制の強化が重要と考え、取り組みを進めます。
従業員と企業が共鳴し 高め合う環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 労働人口の減少や人材の流動化、労働観の多様化等、急速に変化するビジネス環境において、当社グループでは事業ポートフォリオ経営を進めており、事業の多軸化によって成長を続ける戦略を描いています。 今後も持続的成長を実現するためには、人的資本への取り組みを一層強化することが必要と認識しており、多様で専門性の高い人材を獲得し育成すること、事業運営に適う配置の実現と従業員個人の満足度向上を両立する適所適材を実現すること、従業員のやりがい・やる気が向上する環境づくりと全体のアウトプット最大化の双方の実現が必要と考えています。
健全でしなやかな 経営基盤の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> 不確実性が高まり、先が見えない環境下でも、当社グループがステークホルダーから得てきた信頼と期待に応え続け、各重点課題への対応を確実に進めることが、サプライチェーンや地域社会全体の発展につながると認識しています。 法令遵守にとどまらず、当社グループ事業にかかわるステークホルダーの安全、健康、雇用・労働環境等を含む人権の尊重、コーポレート・ガバナンス体制の強化に取り組むことで、健全で持続可能な経営基盤の維持・向上ができると考えます。 当社グループの事業戦略の確実な遂行や業務改革、また、エネルギー事業分野以外においてもさらなる成長を図るためには、牽引するDX中核スタッフ層の確保が必要と考えます。